

# 第4回 北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

## 会 議 録

1. 会議名 第4回北杜市中部横断自動車道活用検討委員会

2. 開催日時 平成26年3月4日（火） 午後2時～午後4時

3. 開催場所 北杜市役所 西会議室

4. 出席者（敬称略）

出席委員：大山 勲、雨宮正行、原かつみ、輿水順彦、浅川力三（代理：清水壽昌）、三井 茂、白倉秀雄、向 一字、進藤幸夫、坂本伴和、長坂良一、小幡 宏、細川淳（代理：中村）、中村 学、坂本正輝、浅川一彦（代理：清水）

欠席委員：小池明智、仲澤幸雄、清水 勲、

事務局：伏見建設部長、清水建設部次長、土屋道路河川課長、道路河川課維持管理担当 中田、小尾

会議録署名委員 向 一字、進藤幸夫

5. 議題

① 開会

② 委員長挨拶

③ 議事

(1)地域のまちづくり検討 事例紹介

(2)各種団体からの意見把握

(3)まちづくりビジョン（案）について

1) 素案に対する意見把握について

2) 意見を踏まえたまちづくりビジョン（案）のとりまとめについて

(4)その他

④ 閉会

6. 公開・非公開の別 公開

7. 傍聴人の数 18名

## 8. 審議内容（司会進行：事務局）

### 1 開会

- ・事務局より開会の挨拶

### 2 委員長挨拶

- ・第4回目の検討委員会である。高速道路は地域にとって良い面も悪い面もあるが、地域を考えるきっかけになって欲しい。
- ・地域のまちづくりがうまく進むところは、行政と住民が信頼性を持って一緒に作っている。

### 3 議事

（検討委員会設置要綱第6条2項の規定により大山委員長に議長をお願いする。）

#### (1) 地域のまちづくり検討 事例紹介

- ・国より、資料に基づき説明。

（委員長）道の駅などのハードを使っても、地域独自のものなど中身を工夫して作っていくことが大事である。

#### (2) 各種団体からの意見把握

（事務局）まちづくりビジョンは地域の活性化に結びつける取り組みや方策の指針となるもので市内の各種団体と大きく関係のあるもの。より実現性・実効性の高い内容とするために、ビジョン策定の前に各種団体の意見を把握。各種団体からは、昨年9月末から11月にかけて検討に先立ち意見を把握させていただき素案の参考とした。その後素案は検討委員会の審議を経てパブリックコメント及び行政区長からの意見把握を実施。今日はさらに内容を充実させるため団体からの意見を直接伺うこととしたもの。対象の団体は、検討に先立つ意見の把握により意見をいただいた13団体の中から、北杜市に所在のある5団体を選定。

- ・各種団体より意見発表。

（キープ協会）キープ協会は高速道路整備については中立の立場である。持続可能な社会の実現が必要。環境との共生と言っても様々ある。環境保全で大事なことは環境教育。保全するためにはまず環境を調べることが重要。非常に貴重

な動物・一般的な動物はその環境を支えているので双方を守ることが大事。共生には具体的な手段が必要である。景観ランドスケープには様々な生物が形作る景観も重要。広範囲（例）東京⇄北杜市⇄軽井沢⇄東京）での周遊型観光が大事。博物館、美術館、芸術家との連携など、人の共生も必要。道路と森との環境、共生をどうするかが重要。

（北杜市観光協会）整備されても通過点になるのは困るので努力していかなければならない。道路整備には賛成であり、早期実現を要望する。来るべき大災害に備え、迂回路、避難路を整備する必要はある。中央道1本に頼るのは危険。もう一度来たいという場所（自然景観が眺望できる場所）を造って欲しい。白州・武川地域へのアクセス道路が必要。看板サインは環境への配慮が必要。北杜市が通過点とならないよう協会としても一生懸命頑張る。

（北杜市商工会）地域活性化は重要なポイント。商工会としては、PA、SA、道の駅などの拠点施設を希望。あらゆる題材で活性化に取り組むべき。地産地消や産業、地域振興に寄与する集客施設を要望する。企業誘致する場合は、研究所などとし、リゾートオフィス的に活用するべき。スマートICやハイウェイオアシスなどの方法もある。6次産業の推進、ブランド化と『おもてなし』の意識もビジョンに盛り込んで欲しい。北杜市の眺望を活用する必要があるため、トンネルばかりの構造はやめてほしい。医療・防災の観点から国道141号の代替路として中部横断自動車道は必要。

（八ヶ岳青年会議所シニアクラブ）シニアクラブとしては早期実現を要望。高根、清里の発展に寄与して欲しい。山岳景観が一望できる場所や自然環境を守りながら活用することが大事。騒音、光害を懸念。次世代の人たちが使って潤っていないと意味が無い。今回の大雪で改めて高速道路の重要性を感じた。緊急時における生活道路としての活用といった観点が盛り込まれると良い。体験型農業がキーワードとなる地域活性化が重要（道の駅、SA、PAでの販売）。農業が観光である。まちづくりビジョンは良いものになっていると思う。

（中部横断自動車道八ヶ岳南麓新ルート沿線住民の会）新ルート案に反対、R141の改良、整備を求めている。新ルート決定過程とルート選定に問題がある。AB案は複数案ではなく、長坂一津金間は選択の余地がない。北杜市には整備に関

し賛否様々な意見があることは理解している。それらを踏まえて議論する場の提案を国・市に拒否された。活用検討委員会設置によるB案の既成事実化は遺憾に思う。新ルート案は八ヶ岳南麓の自然環境、景観にダメージを与え、観光業や住民生活を大きく脅かすもの。新ルート案は自然環境、景観、生活環境を含む環境全体を破壊するもの。R141改良は地元住民の願い。活用検討委員会は、B案前提の狭い議論でなく、整備の是非、ルート案など広範に検討すべき。まちづくりの課題は住む人々の安全、安心が守られること。1万人以上の反対署名は強い意志の現れ。活用検討委員会のB案前提での進め方に問題がある。住民間の亀裂について問題意識を市は持つべき。個人としては今まで地域に貢献してきたつもり。新ルート提案の内容、方法について納得できないで今日に至る。

(3)まちづくりビジョン（案）について

(事務局) 資料3について説明。

(委員長) パブコメ等を通し、今後のまちづくりの方向を考える上で重要なキーワード、視点が追加され、まちづくりビジョンが強化された。

(事務局) 補足説明として、ルート帯の土地問題に関する市の認識として、検討委員会は透明性を確保し、複数回にわたり市民の方々の意見を聞きながら審査を行っていることから、問題がないと認識している。

(委員) 大雪等の非常事態に備えて、非常時のヘリポートの確保や非常時排雪できる駐車場の整備などを盛り込んだらどうか。

(委員長) 今回の大雪でも改めて感じたが、大規模災害が起きると山梨県は孤立する。中部横断自動車道は他の道路よりも標高の高い箇所を通る特殊な山岳道路。高速道路の通常的安全走行確保も他の高速道路より一段高く、雪（凍結）も含めてということでもう少し強調してもよいのではという意見と理解した。ビジョンの中に山梨県の中の交通環境の確保、複数ルートの確保が重要だという文言を追加（強調）してはどうか。

(事務局) 今後プランを作成していく中で、今回の大雪のような災害（事例）も踏まえて、具体的なプランの作成を、まちづくりビジョン作成の後に進めてまとめて行きたいと考えている。

(委員) 道路プランに資する意見は今後の対応とのことだが、参考資料2に記載さ

れている対応案の内容は、具体的でなくわかりにくい説明でまとめている。道路形状の要望も地域で出しているが、対応案では今後検討するとなっている。直接的に影響を受ける地域であり、影響（日照など）を受ける人達のことを考えて欲しい。対応案の内容は玉虫色である。非常時の防災の臨時出口について、要望を出したが、それも出ていない。一般道の整備やそれに伴う側道の問題等について出しても、そういうことについては出ていない。今後検討していくのであれば、ある程度わかりやすい地域に即した見えるものを、できるだけ進めていって欲しい。

(事務局) 今はビジョンづくりの段階、現在は1 km幅のルート帯であり、道路構造など具体的なものをお示しすることができない状況。プランづくりには再度皆様のご意見を頂いて一緒になって作り上げて国に提示していく。今、答えることができる内容でお示しさせて頂いている。

(委員長) 道路構造についてはp 21の道路プランにむけての中身で、それほど気にはしてなかったが、この中に光害の対策が入っているが日照の問題は入っていない。あえて抜いた訳ではないと思うが、これから検討しなくてはいけない項目だと思うので、もう少し増やしても良いのではないかと感じた。

(事務局) p 21の道路プランを検討する項目の例に、日照を追加する。

(委員長) キーワードとして入っていることが大事。そして、今後、プランにつなげていく。来年度また意見を聞くと言うことで、そこでも入ると思うが。せっかく出ている意見なので入れると。まちづくりの素案もキーワードが入っているが、具体的、例えばこんなことをしてはどうかというのも実はこの中にもある。ここ（まちづくりビジョン案）とここ（道路プランの例）の資料のボリュームの差が大きい。ビジョンとしてはこの程度の抽象的なものとならざるをえない。今後、拠点作りに対して、どういう形で進めて行くかということを検討するためには、こちらに書いてある具体的な例の方が今後の議論には役に立つ情報かもしれない。この間を埋めるような抽出を、今後に向けて少し作業をされたらいいかなと思う。

(事務局) 抽象的にならないようわかりやすい資料づくりを行い審議頂く。

(委員) アクセス性の向上をより強調して欲しい。資料4のp 18、観光拠点へのアクセスについて。観光協会からもインターチェンジから遠く（武川、白

州)になると表現していたが、インターチェンジと観光拠点へのアクセス性向上という文言で含まれているのかなと推察するが、さきほど表現が抽象的だという話もあり、インターチェンジから遠隔地へのアクセス、これをもう少し強調できる文言にお願いできたらと。

(事務局) 市全域を対象にした中で、どのように具体的に表現できるか検討し、第5回活用検討委員会時にお示ししたい。

(委員) 賛否様々な意見があるが、環境・景観、安全安心は共通している。このような意見を踏まえ、自然共生のモデル的な道路となるよう取り組むことが、意義のあることだと思う。様々な意見を吸収できるような、この道路を特徴ある全国のモデル的なものとなるように造られたらよいのではないかと。

(事務局) 所掌外の意見については、活用検討委員会では取り扱わないが、北杜市として一定の対応をとることも必要と考えている。所掌外の意見の中には計画論から始まり調整を含む話もあるが、市だけで対応できないものは関係機関と調整し、検討し、対応案ができ次第、活用検討委員会で報告させて頂く。

(委員長) 地域をより良くしたいと考えるのは同じ。地域にとって重要な「環境・景観」「暮らし」を重要視し、前回の検討委員会での素案から順番を変えた。中部横断道路のこの区間について、環境景観、暮らし、防災がとても重要で、モデルにするような道路にすべきという道路の位置づけをどこか、もし強調できれば、どこかに書くのは必要かなと思った。その方向としては、この地域は一致していると思う。この書き方だと4つの分野を設定しましたと、さらっと流れているので、一番はやっぱり環境・景観でしょということが一番上にあるという意思を表している。

(事務局) 市としてどうありたい、どうしたいというものを、もう少し前面に出せるよう工夫する。

(委員長) この委員会はあと1～2年、道路ができるまでにあと15年くらいかかるだろう。その時に、この委員会のこの議論したことが実際の道路の設計えに活かしてもらえるかどうかというのが、重要である。ビジョン、道路プランにきちんと書いて、経済性だけでなく、環境景観に配慮した道路を作ってもらうことが、今、これを作っている大きな目的である。

(4)その他

(事務局) 今回の委員の意見、及び団体の意見を踏まえてビジョンを修正し、第5回検討委員会で提示する。第5回検討委員会は、3月24日(月)14時から開催する。

(委員長) 本日の委員会で出し切れなかった意見があれば事務局提出でよいか。

(事務局) 事務局作業の時間も確保したいので、10日間くらいの間提出頂きたい。

4 閉会 事務局

会議終了 午後4時